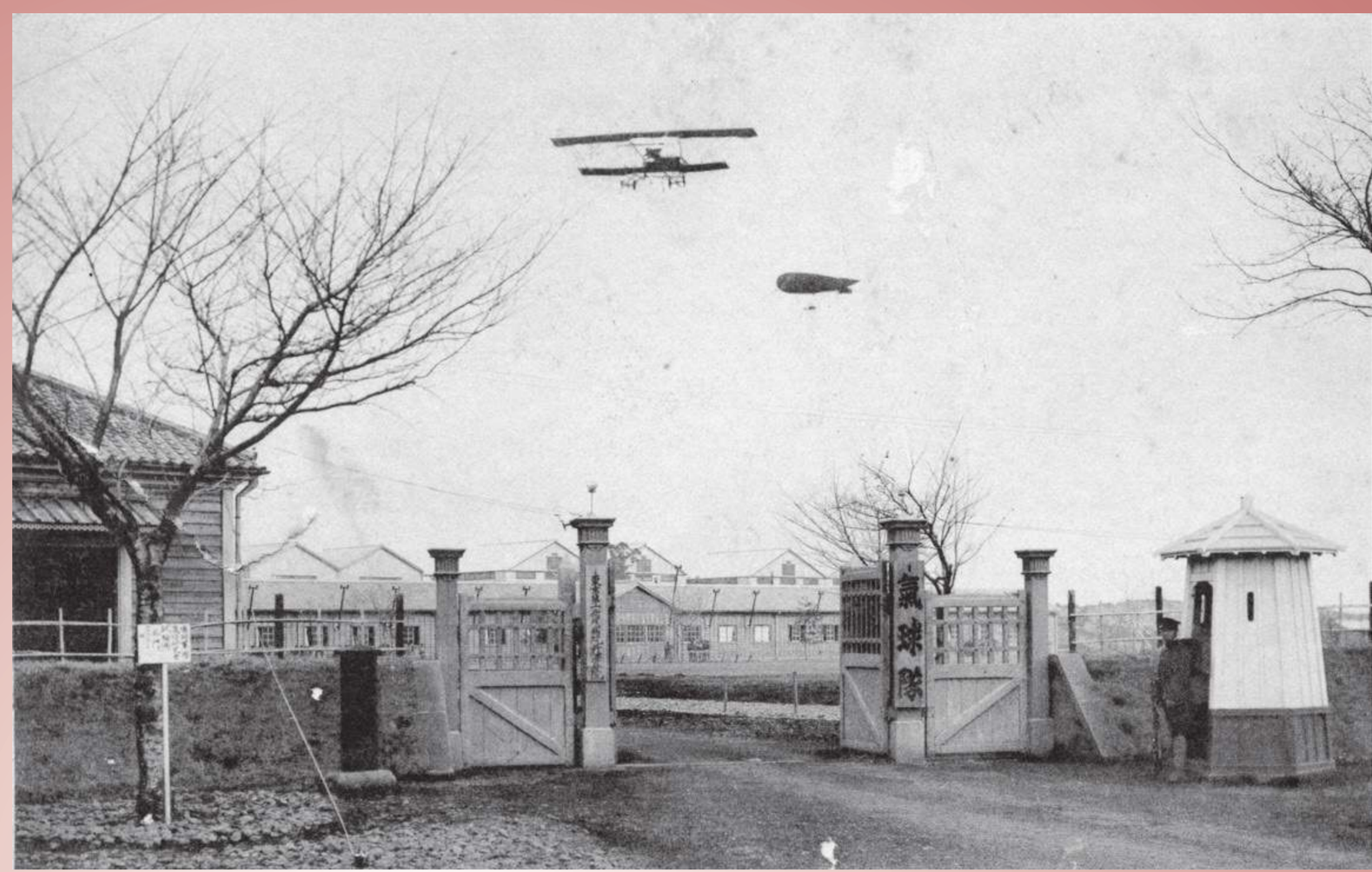
―所沢飛行場ものがたり―

所沢飛行場の気球隊

気球隊は中野から所沢に移駐

日露戦争で難攻不落と言われた旅順要塞の偵察のために、陸軍は東京府中野の電信教導大隊内に一時、臨時気球隊を編成し、明治 40（1907）年には常備航空部隊としての陸軍気球隊を新設しました。気球隊の主な任務は、繋留気球による観測や自由気球による偵察などでした。**大正 2（1913）年、気球隊は規模拡大のために中野から所沢飛行場に移駐しました。**



気球隊の看板が掛かる所沢飛行場の門柱（この看板は所沢航空発祥記念館で展示中）

日本で最初の航空部隊となる気球隊の活躍

日露戦争前の明治 34（1901）年、徳永少佐が試作した気球。上空で写真撮影や電話による偵察報告を行った。

日露戦争（明治 37（1904）年 2 月 8 日～明治 38 年 9 月 5 日）の時、すでに凧式気球の製作に成功していた山田気球製作所に対し、陸軍は旅順港偵察のため急ぎ 2 機の繋留気球を作らせ、**明治 37（1904）年 6 月 7 日、臨時気球隊を編成し 8 月上旬から戦闘に参加**しています。敵の攻撃を受けながらも**臨時気球隊は砲兵射撃観測、要塞や港内の偵察を実施し、日本初といえる航空部隊の戦績**を飾っています。気球の野戦における重要性を認識した陸軍は第 1 師団隷下に気球隊を設け、電信教導大隊（東京府中野町）内に収容、要員は毎年各工兵大隊より下士官 5 名づつを分遣して気球兵教育を実施しました。

明治 40（1907）年 9 月、鉄道連隊・電信大隊（電信教導大隊を改編）を編合して交通兵旅団を新設、翌年 10 月、従来の気球班を発展改編した気球隊が常備部隊として創設されました。大正 2（1913）年 5 月 7 日、平時編成を改正し、気球隊気球中隊が新設がされましたが、その 2 年前に所沢に完成した臨時軍用気球研究会所沢試験場（所沢飛行場）において気球隊は度々野外演習を実施していました。

日露戦争時に旅順要塞の偵察に活躍した山田式凧型気球

大正 2（1913）年 10 月、新兵舎が完成し気球隊は中野から所沢に移駐しますが、その際、所沢では商店街では紅白の柱に歓迎の行灯を飾り、歓迎式典をはじめ**町をあげて気球隊を大歓迎**したそうです。気球隊は、飛行機操縦術、自動車運転術、機関分解融合、自由飛行、飛行気球操縦助手術、繋留気球による偵察、写真術の術科と飛行機学、飛行機操縦教程、機関学大要、ガス学大要、気象学大要その他の学科を教育しました。